

平成29年度

第1回岡山市総務・市民政策審議会における主要な意見

1 日 時 平成29年10月4日（水）9時58分～11時4分

2 場 所 岡山市役所議会棟3階第1会議室

3 出席者 委員8名

4 傍聴者 報道 0名 傍聴者 3名

5 議 題

岡山市人権教育及び人権啓発に関する基本計画の改訂について

6 第1回岡山市総務・市民政策審議会での主な意見

- ・ 多様化にあわせて取り組もうとしていることが理解できたので、ぜひこの流れで進めてほしい。
- ・ ダイバーシティの認識について、表層面と深層部の二面性で捉える必要があるのではないか。
- ・ いじめの問題には、いじめがなくなるように教育すること、いじめが起きたときに迅速・適切な解決を図ることの両方の施策が必要だが、素案は前者に偏っているのではないか。
- ・ 子どもに関しては、行政の縦割りを越えた連携が必要である。また、地域社会全体で子どもたちを守っていくシステムを再構築する必要がある。
- ・ 学校の地域に対する対応は様々で、いじめ問題等の情報は教えてくれない。相談がない限りは、地域から学校に出ていくことはできないのが現状である。
- ・ 総社市では、教育委員会、社会福祉協議会と協働で、学生が週2回家庭に入って、勉強を教えたり話を聞いたりする事業を行っている。子どもにも成果が見られるし、学生が地元就職することにもつながっている。岡山市は人口が多いので同じようにはできないかもしれないが、具体的にアクションを起こして、課題解決に向けて進めてほしい。

- 公民館等への講座へは限られた人しか参加しない。市民一人ひとりが自分の問題として取り組めるような方法はないだろうか。
- 多様性の根底には市民の文化がある。地域の祭りなどの足元の文化を構築しなおし、つながりを再構築することで、支援が必要な人たちに目が届きやすくなる。地域を再構築するためには文化力が必要である。
- 地域としては、イベントなどの地域おこしを行う中で、「みんなで仲良く楽しく」という思いでやっている。
- 行政も縦割りだが、NPOも横のつながりを持とうとしない。様々な分野の行政とNPOが一堂に会して情報を共有できる場があればと思う。
- 今後は、市民協働での取り組みも推進してほしい。
- 市の取組が、市民にもわかるようにPRに努めてもらいたい。
- 意見を可能な限り反映して良い計画を策定し、市民の皆さんに理解してもらえるように頑張ってもらいたい。
- 障害のある人の「害」の字について検討をお願いしたい。
- 大事な計画なので、今後は早めに改訂をお願いしたい。